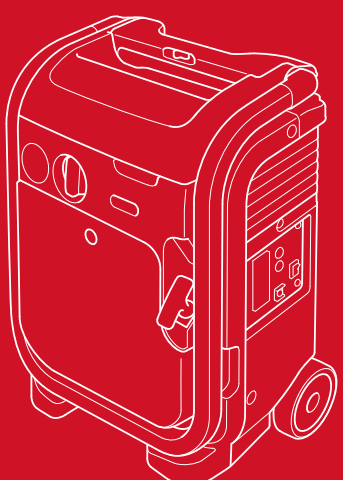
HONDA
汎 用 製 品

発電機

EU9iGB

取扱説明書



eSPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

はじめてご使用になるときは、
60頁「はじめてお使いいただ
く前に」をお読みください。

Honda発電機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげ販売店またはサービス店**にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

・運転をするときには、必ず携帯してください。
・発電機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた発電機を安全かつ能率的に使用する手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ……4
安全ラベル ……10
本機の置きかた ……12

各部の名称と取扱いをおぼえましょう……13
コントロールパネル ……14
エンジンスイッチ ……15
始動グリップ ……15
出力表示灯 ……16
過負荷警告灯 ……17
オイル／転倒警告灯 ……18
周波数切換えスイッチ ……18
コンセント ……19
並列運転端子 ……19
エコスロットルスイッチ ……20
アース端子 ……21
メンテナンスカバー ……21
キャリーハンドル ……22

運転をする前に点検しましょう……23
燃料の点検 ……23
カセットボンベの取付け･取外し･交換方法について ……24
口金Oリングの点検……25
エンジンオイルの点検 ……26
エアクリーナの点検 ……27
発電機周辺の点検 ……28

発電機のかけかた……29

電気の取出しかた……35
並列運転 ……38

発電機のとめかた……42

定期点検を行いましょう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46

点検・整備のしかた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
エンジンオイルの交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
エアクリーナの清掃 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

非常用電源などの用途にご使用の場合には・・・・・・・・・・・・・51

運搬する場合には・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

長期間使用しないときの手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55

修理を依頼される前の簡単な点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

はじめてお使いいただく前に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60

主要諸元・・・62

交流電源の使用できる範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

配線図・・64

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- この発電機は車載用としては製造していませんので車載したまま使用しないでください。
- 医療機器への使用、キャンピングカー搭載での使用はしないでください。思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 発電機を間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- エンジンを始動する前に必ず「運転をする前に点検しましょう」(23〜28頁)を行ってください。事故や本機、使用電気機器の故障の防止になります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して発電機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすおそれがあります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気は風通しのよい場所に向けてください。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや屋外でも換気の悪い場所では使用しないでください。カセットこんろと異なり、排気ガス中の一酸化炭素濃度が高いので短時間でも中毒死するおそれがあります。
- 屋外でも以下のような場所では排気ガスが流入し、一酸化炭素中毒で死亡するおそれがあります。
  - ・ベランダなどの窓や、玄関の近く
  - ・テントの近く
  - ・ガレージの近く
  - ・温室／ハウスの近く
- 一酸化炭素は、無色、無臭、無味の気体で、非常に毒性が強く、少量でも死亡するおそれがあります。

警告

- 発電機は平坦で堅い場所に置いて使用してください。
  小石、土、砂利などで凸凹していたり、軟かい所や傾斜地では使用しないでください。発電機が転倒し、本機や接続の電気機器が故障を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 発電機の改造は絶対にしないでください。
  本機や接続の電気機器が故障するだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- カバー類を外したまま使用しないでください。手や足をはさんだり思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。
  雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあり危険です。
- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。
  本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。
- 並列運転端子には専用コード以外は絶対に接続しないでください。
  感電するおそれがあります。

警告

●カセットボンベの取扱い

- 使用するカセットボンベは、「東邦金属工業(株)」と表示があるカセットこんろ用ボンベをご使用ください。
- カセットボンベに記載されている警告内容をよくお読みください。
- カセットボンベは本機に正しくセットしてください。カセットボンベが正しくセットされていない場合、ガス漏れを起こすおそれがあります。
- カセットボンベの取付け、取外しを行うときや、カセットボンベの付近では、タバコを吸ったり、炎や火花などの火気を近づけないでください。
- 本機からカセットボンベを取外した場合は、必ずカセットボンベに付属のキャップを装着してください。カセットボンベの先端ノズルが押し込まれるとガスが噴出し、事故を引き起こすおそれがあります。
- カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こすおそれがありますので、次のことをお守りください。
  - カセットボンベを火の中に投げ入れないでください。
  - カセットボンベを40°C以上になる場所に置かないでください。
  - カセットボンベを炎天下に置かないでください。
- カセットボンベに錆や変形がある場合は、使用しないでください。ガス漏れを起こすおそれがあります。
- 本機を使用しないときは、カセットボンベを取外してください。
- カセットボンベを保管する場合は、カセットボンベに付属するキャップをつけて40°C以下の湿気の少ない場所に保管してください。思わぬ事故の原因になります。

警告

●使用中は

- 使用中は建物およびその他の設備から1 m以上本機を離してください。
  発電機から出る排気ガスは熱くなります。まわりに危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすいもの(わらくず、紙くずなど)は近付けないでください。また発電機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりしないでください。本機や接続の電気機器に損傷を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 使用中や停止直後の発電機はマフラなどが非常に熱くなっています。マフラなどに触れたり、物をのせないでください。やけどなどの傷害や火災事故を引き起こすおそれがあります。
- 使用中は発電機を傾斜させたり、移動しないでください。
  振動による自然移動、転倒による本機や接続の電気機器の損傷、故障の原因など思わぬ事故の可能性があります。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、カセットボンベを取外してお買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。
- 発電機から離れるときは、必ずエンジンを止め、コンセントから電気機器のプラグを外してください。プラグを外さないといたずらなどで電気機器が動きだし、思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 液化ブタンは瞬時に気化し、非常に引火しやすく爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。カセットボンベを交換するときは、必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。カセットボンベを交換するときはタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。

警告

- カセットボンベを本機に取付けるときは、口金部にゴミや異物がないことを確認してください。
- 口金部に泥や砂などが付着している場合は、口金Oリングを傷めないように綿棒などで拭き取ってください。口金Oリングを傷めると、カセットボンベ内のガスや、配管内にたまっているガスが噴出し、引火するおそれがあります。
- 交換用カセットボンベは炎天下に置かないでください。カセットボンベに付属するキャップを取付けて、40°C以下の日陰で保管してください。
  正しく保管しない場合、カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や車内では絶対に使用しないでください。一酸化炭素によるガス中毒で短時間でも中毒死するおそれがあります。

●使い終ったら

- 発電機を水洗いしないでください。
  電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。
- 本機の点検や清掃をするときは下記の状態であることを確認のうえ行ってください。守らないと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
  ・エンジンが停止している
  ・カセットボンベが取付けられていない
  ・配管内にガスが残留していない(45頁参照)
  ・エンジンスイッチが“停止”の位置にある

警告

- 停止直後のエンジンとマフラは非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりカセットボンベを近づけたりしないでください。やけどをしたり、カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- カセットボンベを本機から取外し、カセットボンベに付属するキャップを取付けて40°C以下の日陰に置いてください。カセットボンベを本機にセットしたまま炎天下に放置すると、カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- カセットボンベを捨てるときは、カセットボンベ内のガスを完全に使い切ってから、お住まいの地域の取り決めにしたがって捨ててください。ガスが残ったまま捨てるとゴミ収集車の火災の原因となるおそれがあります。
- ボディカバー等をかける場合は、本機が冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

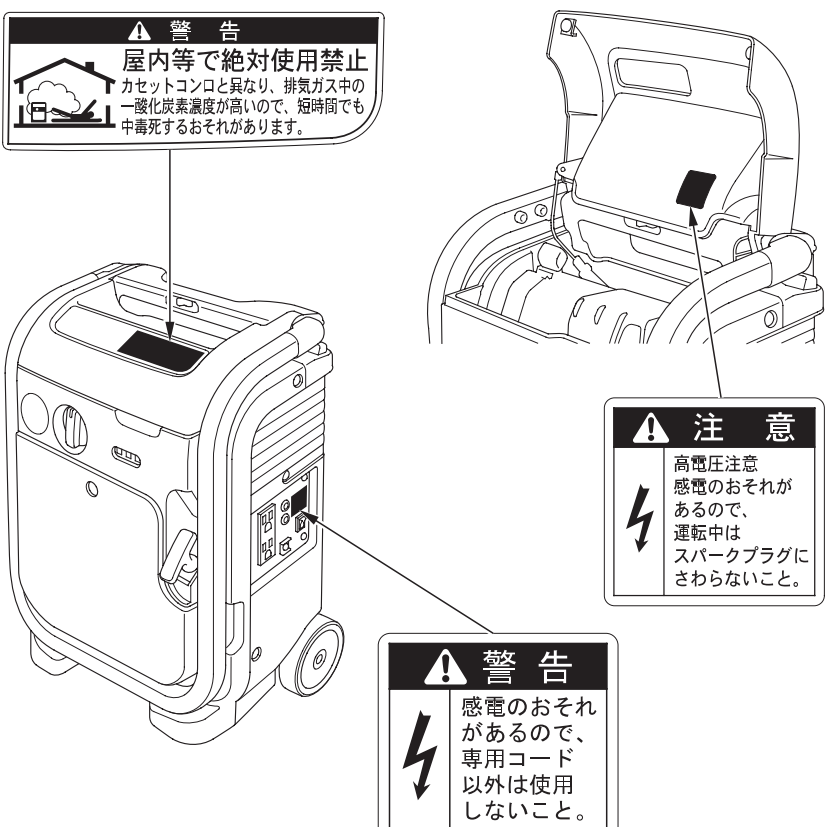
●積み下ろしおよび運搬時

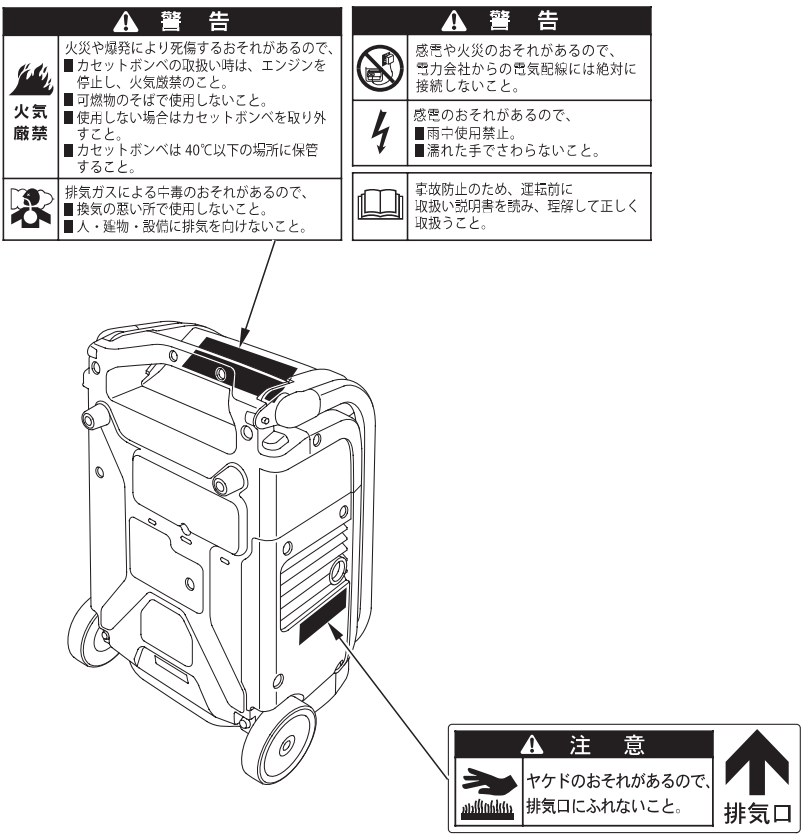
本機をトラックなどへ積み下ろしするときや、運搬するときは下記の状態であることを確認のうえ行ってください。守らないと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

・エンジンが停止している
・カセットボンベが取付けられていない
・配管内にガスが残留していない(45頁参照)
・エンジンスイッチが“停止”の位置にある

安全ラベル

発電機を安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。
安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルは、はっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。

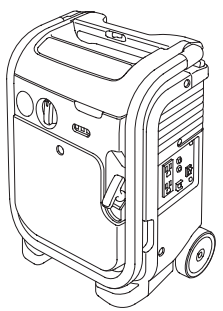



⚠ 警 告
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
■カセットボンベの取扱い時は、エンジンを停止し、火気厳禁のこと。
■可燃物のそばで使用しないこと。
■使用しない場合はカセットボンベを取り外すこと。
■カセットボンベは 40℃以下の場所に保管すること。
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、
■換気の悪い所で使用しないこと。
■人・建物・設備に排気を向けないこと。
⚠ 警 告
感電や火災のおそれがあるので、
電力会社からの電気配線には絶対に接続しないこと。
感電のおそれがあるので、
■雨中使用禁止。
■濡れた手でさわらないこと。
事故防止のため、運転前に
取扱い説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
⚠ 注 意
ヤケドのおそれがあるので、
排気口にふれないこと。
排気口

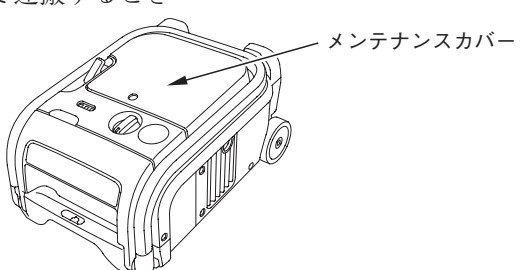
本機の置きかた

以下の作業をするときは縦置きと横置きの置き方を守ってください。

縦置き
- 始動、運転するとき
- 点検、整備するとき
- トラックの荷台などで運搬するとき
- 保管するとき



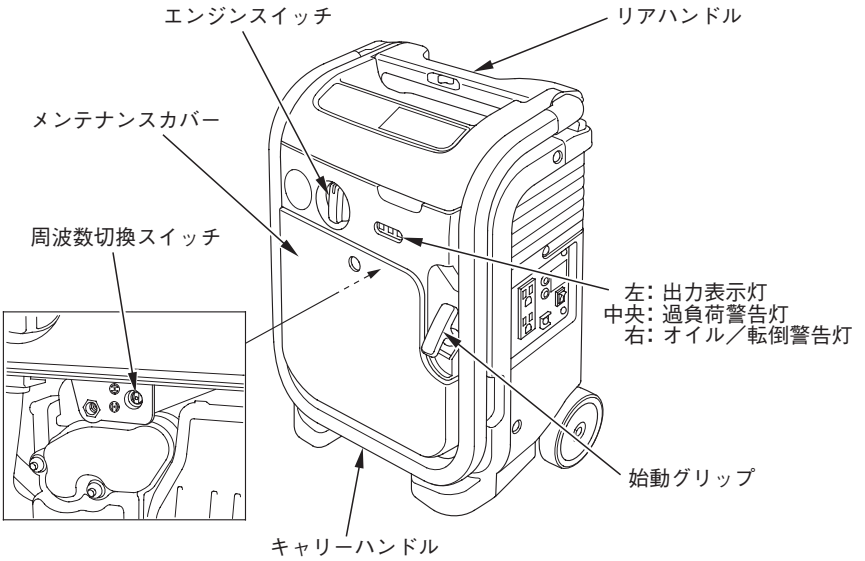
横置き
- 乗用車の車内に載せて運搬するとき

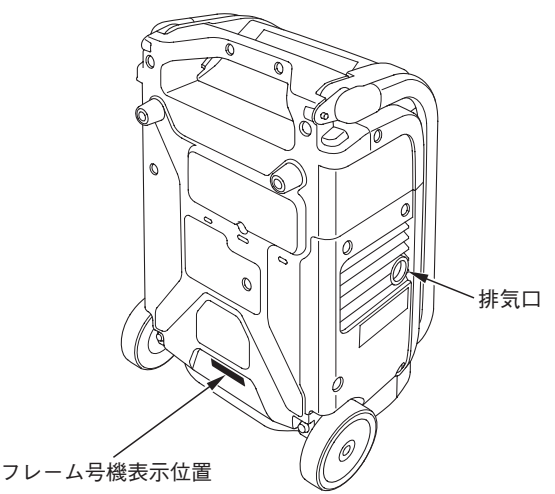


取扱いのポイント

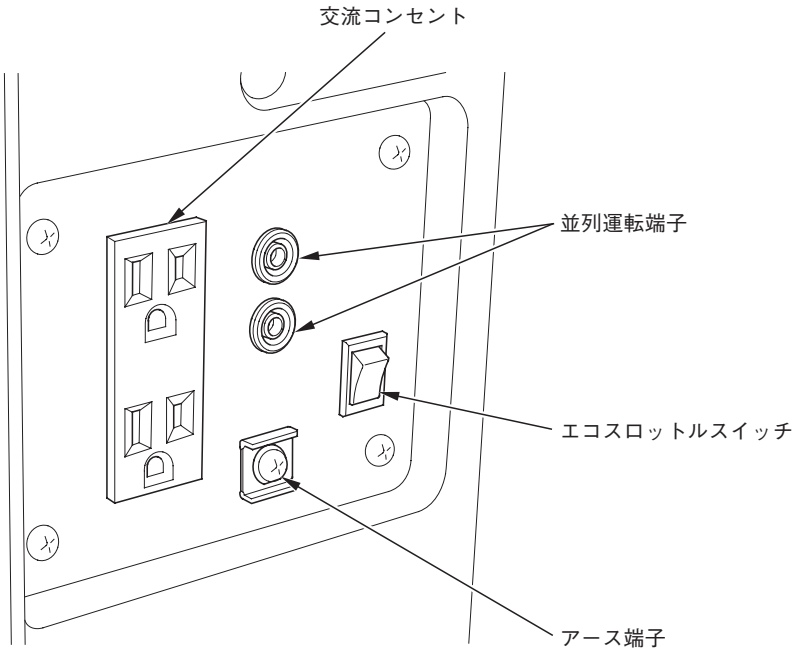
本機を横置きするときはメンテナンスカバーが上になるように置いてください。守らないとエンジンオイルがエアクリーナへ流入し、運転時に白煙が発生したり、エンジンオイルが減少し破損につながるおそれがあります。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

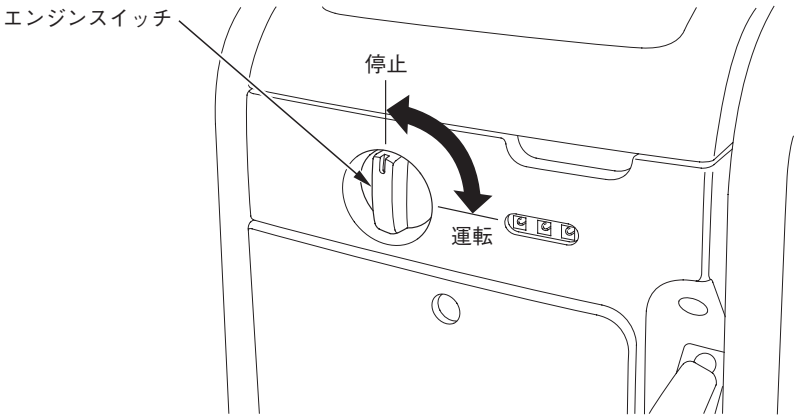




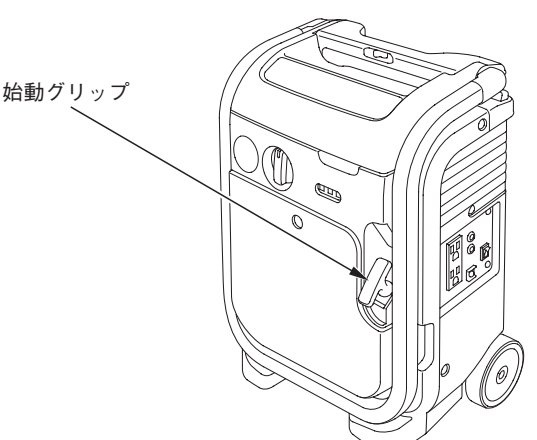
コントロールパネル



エンジンスイッチ
発電機を運転、停止するときに操作します。



始動グリップ
発電機を始動するときに操作します。



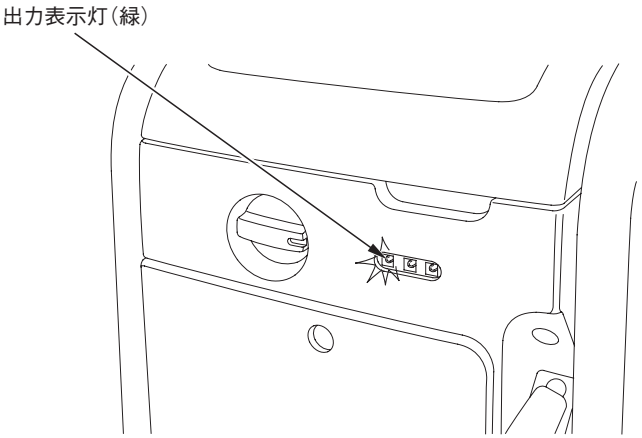
出力表示灯

発電状態を確認できます。

発電中は出力表示灯(緑のランプ)が点灯し続けます。

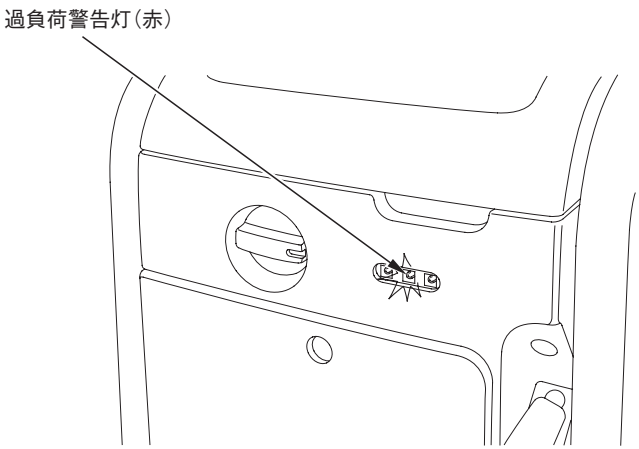
- エンジン始動時に出力表示灯(緑のランプ)が点滅します。点滅の回数は累積運転時間を示します。

  - 点滅なし:100時間未満
  - 1回点滅:100時間以上、200時間未満
  - 2回点滅:200時間以上、300時間未満
  - 3回点滅:300時間以上、400時間未満
  - 4回点滅:400時間以上、500時間未満
  - 5回点滅:500時間以上



過負荷警告灯

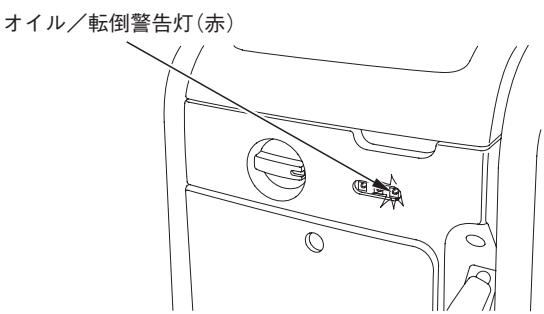
発電中に使用器具に異常があった場合や、過負荷※のときに出力表示灯(緑のランプ)が消え過負荷警告灯(赤のランプ)が点灯し、電気が取出せなくなります。
使用する電気器具は必ず定格出力内で使用してください。主要諸元(62頁)、交流電源の使用できる範囲(63頁)を参照してください。



※過負荷とは:
発電機の定格出力以上(900W以上)の電気機器をご使用になることです。モーターを使用している機器など一部の機器では、900W以下でも過負荷となりご使用いただけない場合があります。(63頁参照)

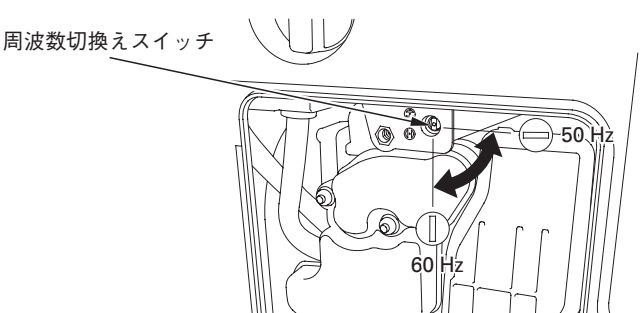
オイル／転倒警告灯

エンジンオイル量の不足と本機の転倒を警告するランプです。
本機のエンジンにはオイルアラート機構（焼付防止エンジン自動停止装置）が内蔵されています。運転中にエンジンオイルが不足すると、オイル／転倒警告灯（赤のランプ）が点灯し、エンジンは自動的に停止します。
始動グリップを引いてオイル／転倒警告灯（赤のランプ）が点灯する場合、または運転中にオイル／転倒警告灯が点灯しエンジンが停止した場合は、エンジンオイル量を点検してください。（点検は26頁参照）
オイルが規定量入っていても、本機が傾斜しているとオイルアラート機構または、転倒センサーが作動してエンジンが停止することがあります。



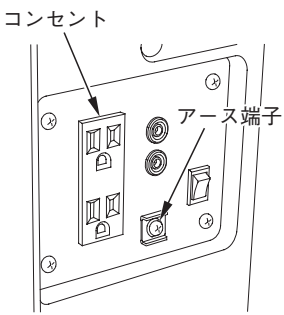
周波数切換えスイッチ

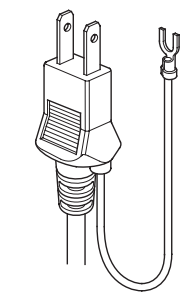
周波数の切換え（50 Hz↔60 Hz）を行うスイッチです。
エンジンを始動する前に、接続する電気機器に合わせ周波数を切換えてください。



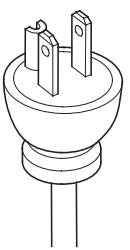
コンセント

交流電気を取出すところです。
コンセントへプラグを差込む場合は、接触不良、抜けのないように確実に行ってください。
差込みプラグは図のような市販のアース線付きプラグまたは、アース付き３本足差込みプラグを使用してください。
アース線付きプラグは必ずアース線をアース端子に接続して使用してください。





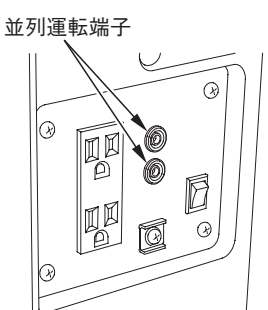
アース線付きプラグ

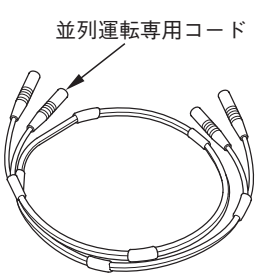


アース付き
３本足差込みプラグ
（市販品）

並列運転端子

並列運転をするときに専用コードを差し込む端子です。
接続コードは**並列運転専用コード**（別売部品）を必ず使用してください。
専用コードはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。





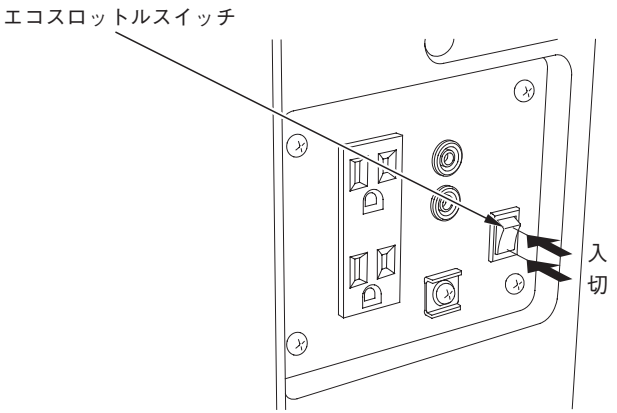
（別売部品）

エコスロットルスイッチ

エコスロットルは、負荷に応じエンジン回転を変化させ、燃料消費と騒音を減らします。

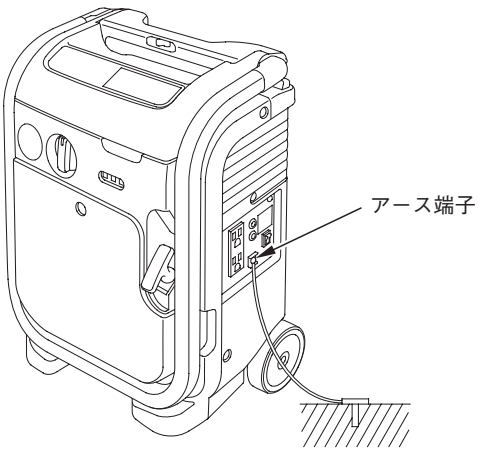
スイッチ	エンジン回転数	効果･特徴
入	変化範囲が広い （負荷に合わせる）	燃料消費と騒音を減らす
切	変化範囲が狭い （定格出力を維持）	･負荷変動の大きい機器に適す （モータ動力の機器に適す） ･高負荷機器（定格出力以下）に適す

- スイッチ**“入”**で保護装置の機能により電気が取出せない場合でも、**“切”**で取出せることがあります。スイッチ**“切”**で発電を試みる場合、エンジンを一旦停止してください。



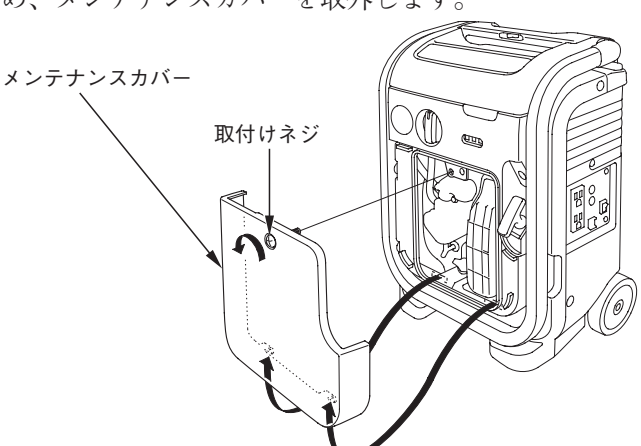
アース端子

発電機をアースする端子です。
発電機に接続する電気機器を大地にアースしたときは、発電機も必ずアースしてください。



メンテナンスカバー

エンジンオイル量点検、補給、エアクリーナの清掃などをするときに取外します。
メンテナンスカバーは、マイナスドライバ等を使用して取付けネジをゆるめ、メンテナンスカバーを取外します。



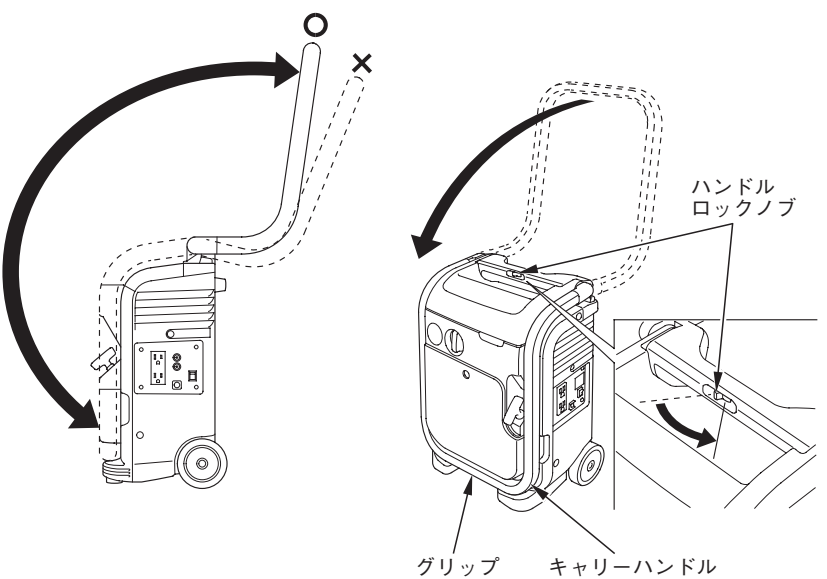
キャリーハンドル

本機を移動するときに引き上げて使用します。(52頁参照)
移動後はキャリーハンドルを下げてください。

指などを挟まないように注意して、本機を押さえながらキャリーハンドルを操作してください。また、キャリーハンドルを引き上げるときは無理に後ろに倒さないでください。

上げ方: キャリーハンドルのグリップを持って引き上げます。

下げ方: ハンドルロックノブを図の矢印の方向にスライドしてキャリーハンドルを押し下げます。
ハンドルロックノブがスライドしないときはキャリーハンドルを前後に少し動かしてください。



運転をする前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を縦置きにして、下記の状態であることを確認のうえ行ってください。守らないと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

・エンジンが停止している
・カセットボンベが取付けられていない
・配管内にガスが残留していない(45頁参照)
・エンジンスイッチが“停止”の位置にある

燃料の点検

⚠警告

液化ブタンは瞬時に気化し、非常に引火しやすく爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

・換気の良い場所で行ってください。
・カセットボンベに火気を近づけないでください。
・錆や変形があるカセットボンベは使用しないでください。

使用燃料

- 東邦金属工業(株)製と表示があるカセットこんろ用ボンベ

⚠警告

必ず「東邦金属工業(株)」と表示のあるカセットこんろ用ボンベを使用してください。表示のないカセットボンベを使用すると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

東邦金属工業(株)製と表示があっても、特性の異なる一部のボンベには、外気温40°C付近のエンジン停止で圧力検知弁が作動しやすくなるものがあります。圧力検知弁が作動したときは、少し時間をおいて、リセットボタン(58頁参照)を押してから始動してください。

使用温度範囲

- 外気温5～40°C

使用温度範囲外では、本機は使用できません。運転中に外気温が使用温度範囲外に変化した場合、エンジンが停止することがあります。

燃料の量

- 使いかけのカセットボンベは、軽く振ることによりガスの残量を感じることができます。
- 未使用のカセットボンベ２本での運転時間は約１時間です。但し、運転時間は使用環境によって変化します。
- エンジンが止まるまでカセットボンベ内のガスを使っても、カセットボンベ内に少量のガスが残る可能性があります。なお、冬季は夏季に比べボンベ内に残留するガスが多くなる場合があります。

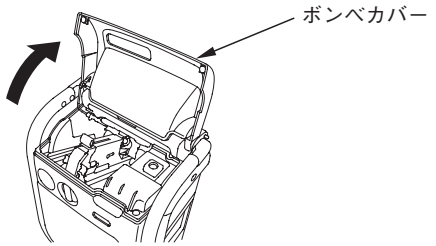
カセットボンベの取付け･取外し･交換方法について

カセットボンベの取付け･取外し･交換は、エンジンを停止した状態で行ってください。

- エンジンのとめかたは… 42頁
- カセットボンベの取付けかたは… 30頁～32頁
- カセットボンベの取外しかたは… 43頁～44頁

口金Oリングの点検

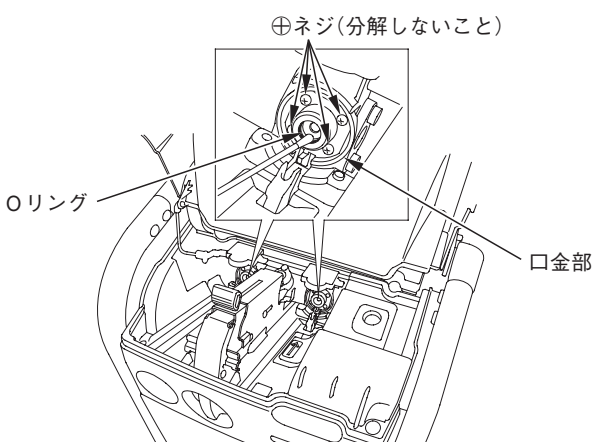
1. ボンベカバーを開けます。
   ボンベカバーはスプリングで自動的に閉まるので片手で押さえながら作業を行ってください。



2. 口金部の汚れを点検します。
   口金部に泥や砂などの汚れが付着している場合は、口金部のOリングを傷つけないように綿棒などで拭き取ってください。Oリングに損傷や亀裂がある場合はお買いあげ販売店またはサービス店にお問い合わせください。

⚠警告

口金部を清掃する場合は、口金部の⊕ネジをゆるめて分解したり、Oリングを傷つけないでください。配管内にたまっているガスが噴出し、引火するおそれがあります。



エンジンオイルの点検

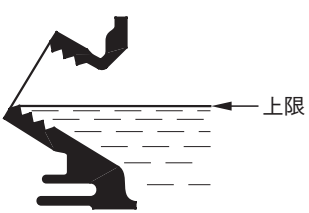
点検

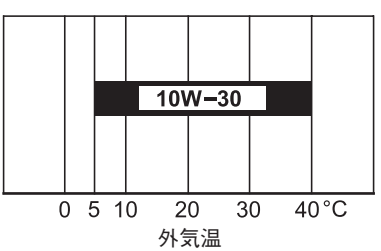
メンテナンスカバーの取付けネジをゆるめて、カバーを取外します。(21頁参照)
オイル給油キャップを外し、オイル給油口の口元までオイルがあることを確認してください。
汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換方法は48頁参照)

補給

少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。

推奨オイル:
(4ストロークガソリンエンジンオイル)
Honda純正ウルトラG1または、ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。





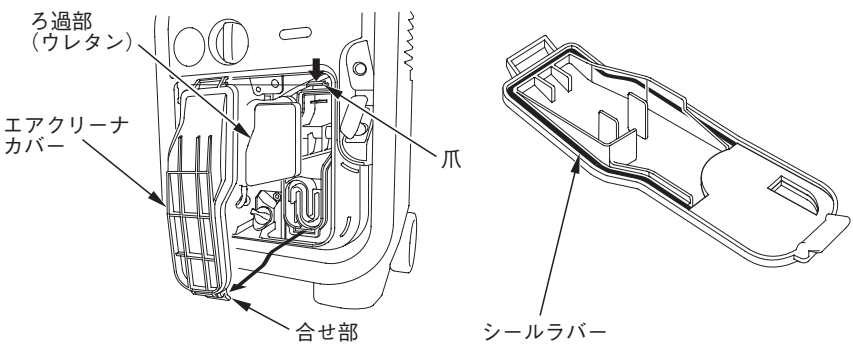
取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナの点検

点検

1. メンテナンスカバーの取付けネジをゆるめて、カバーを取外します。(21頁参照)
2. エアクリーナ上部の爪を押し下げ、カバーの上部を外し、下部の合せ部を外してエアクリーナカバーを取外します。
3. ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
   汚れのひどい場合は、ろ過部(ウレタン)の清掃をします。(清掃方法は49～50頁参照)



4. エアクリーナカバーに取付けられたシールラバーに損傷がないこと、また確実に取付けられていることを確認します。
   エアクリーナカバーを確実に取付けます。
   取付けは、下部の合せ部を組付けた後、上部の爪を確実に組付けてください。

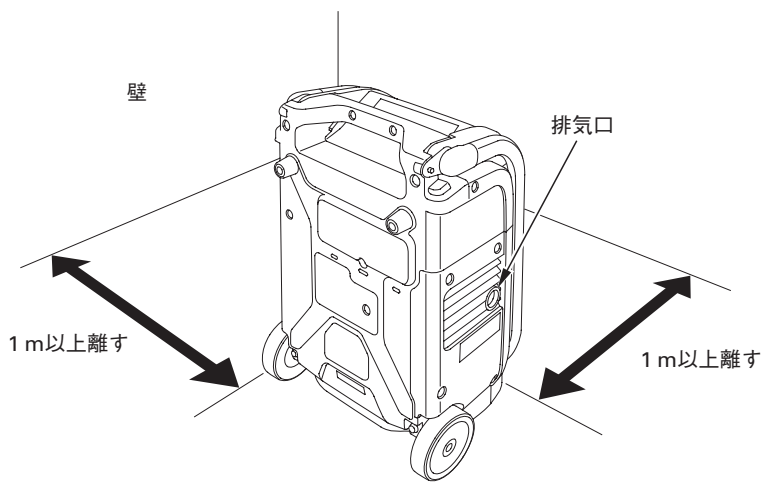
取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン)が変形して取付けられた場合、またカバーやろ過部(ウレタン)が取付けられていない場合は、エンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン)などは確実に取付けてください。

5. メンテナンスカバーを確実に取付けます。

発電機周辺の点検

- 燃えやすいものや危険物は置いていませんか。
- 建物および他の設置物から１ｍ以上離れていますか。
- 風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- 排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。
- 周囲に火の気はないですか。
- 発電機をダンボール等で囲っていませんか。
- 使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり軟らかい所では使用しないでください。
  やむをえず使用する場合は、発電機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- 傾斜地では使用しないでください。



発電機のかけかた

⚠警告

- 屋内や車内など換気の悪いところでは絶対に使用しないでください。カセットこんろと異なり、排気ガス中の一酸化炭素濃度が高いので、短時間でも中毒死するおそれがあります。
- 本機からガス漏れ(臭気)がないことを確認してください。ガス漏れ(臭気)がある場合はカセットボンベを取外し、お買いあげ販売店またはサービス店にお問い合わせください。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないことを確認してから始動してください。火災の原因になることがあります。

⚠注意

本機のコンセントから電気機器のプラグが抜いてあることを確認してください。電気機器が接続されたまま発電機を始動すると、電気機器が不意に作動を始め思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。また、始動困難や発電性能に異常をきたすことがあります。

使用温度範囲

- 外気温5～40°C

使用温度範囲外では、本機は使用できません。運転中に外気温が使用温度範囲外に変化した場合、エンジンが停止することがあります。

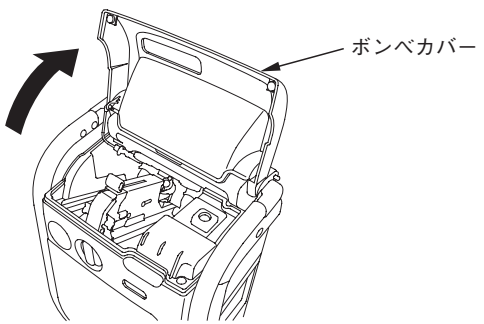
外気温が使用温度範囲外で、エンジンが始動できなかった場合、エアクリーナ周辺よりガスの臭いがすることがあります。

1. カセットボンベを取付けます。

①ボンベカバーを開けます。

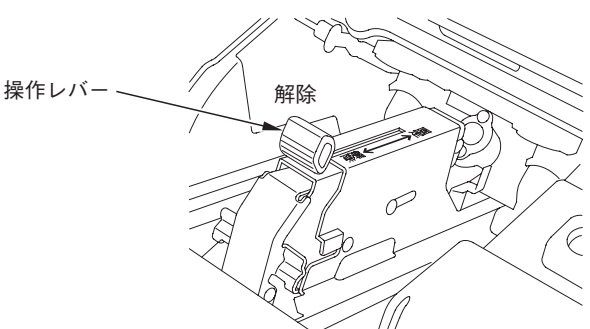
ボンベカバーはスプリングで自動的に閉まるので片手で押さえながら作業を行ってください。

内部にゴミ･異物がないことを確認してください。

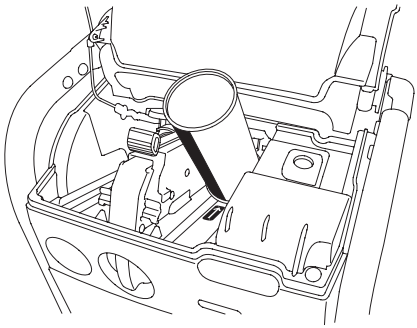


②口金部にゴミ･異物がないことを確認してください。(25頁の口金Oリングの点検を参照)

③操作レバーが**“解除”**位置にあることを確認します。操作レバーが**“解除”**位置までしっかり戻っていないとカセットボンベを正しくセットできないおそれがあります。



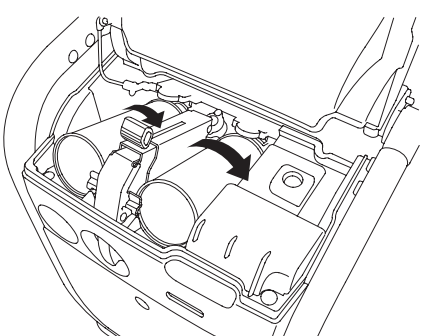
④カセットボンベ付属のキャップを外し、カセットボンベの切欠きまたは赤いラインを下側にし、先端から奥に差し込みます。同様の手順で２本目もセットしてください。



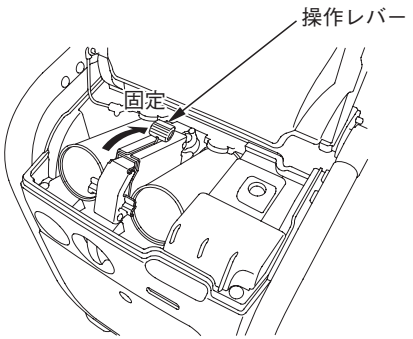
取扱いのポイント

カセットボンベは必ず２本セットして使用してください。カセットボンベを１本しかセットしないで使用すると本機が破損するおそれがあります。

⑤カセットボンベが連続して回転しないことを確認します。

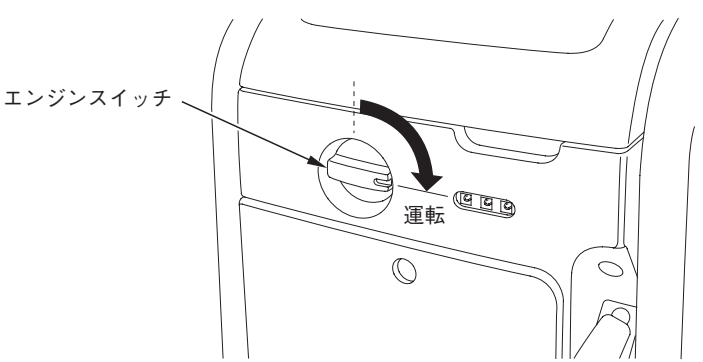


⑥操作レバーを“解除”から“固定”にスライドさせます。カセットボンベが正しい状態でセットされていないと操作レバーは動きません。
操作レバーが動かない場合はカセットボンベを正しくセットし直してください。
操作レバーから手を離しても“固定”の位置から戻らないことを確認してください。



⑦ボンベカバーを閉じます。
ボンベカバーを閉じるときは手をそえてゆっくりと閉じてください。

2. エンジンスイッチを“運転”の位置に合わせます。



3. 本機のボンベカバー部を押さえ本機を固定しながら、始動グリップを引いて重くなる所をさがし、その重くなった所から勢い良くグリップを引きます。始動グリップは図の矢印方向に引いてください。始動グリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。

⚠警告

始動グリップを引くときはリアハンドルを押さえないでください。本機が転倒し事故を引き起こすおそれがあります。

取扱いのポイント

- 始動グリップは必ず指定の方向へ引いてください。無理な方向への操作は、ロープの寿命を著しく縮めます。
- 始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- 始動グリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

4. 約 1 分間暖機運転を行います。

取扱いのポイント

始動直後のエンジン停止を繰り返し行わないでください。エンジンの始動不良など、不具合の原因になります。

- 非常用電源などの用途で常時使用しない場合、暖機運転後に照明器具などを使用して10分以上の試運転を行ってください。（51 頁参照）

電気の取出しかた

電気機器を接続する前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みください。

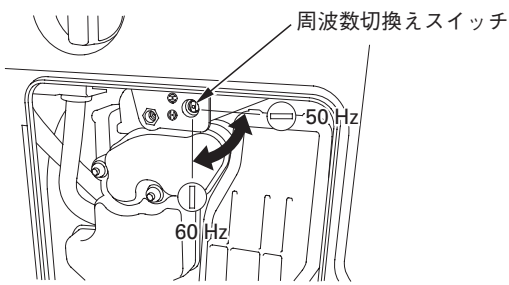
⚠警告

電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。
火災あるいは人身事故、または本機や使用電気機器が故障する原因となります。

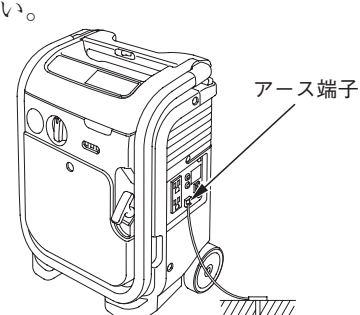
- **発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。**

交流電源の使用できる範囲は、63 頁を参照してください。

1. 周波数切換えスイッチを接続する電気機器の周波数に合わせます。



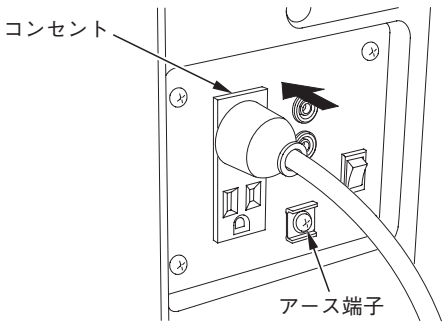
2. アース端子を接続します。
   発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。



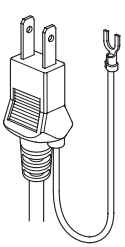
3.「発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。(29~34頁参照)

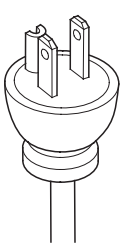
●出力表示灯(緑のランプ)が点灯せず、過負荷警告灯(赤のランプ)が点灯した場合はエンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンを一旦停止させてから、エンジンを再始動してください。

4. 接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、コンセントへ電気機器のプラグを確実に差込みます。



●差込みプラグは図のような市販のアース線付きプラグまたは、アース付き3本足差込みプラグを使用してください。
アース線付きプラグは必ずアース線をアース端子に接続して使用してください。


アース線付きプラグ


アース付き3本足差込みプラグ(市販品)

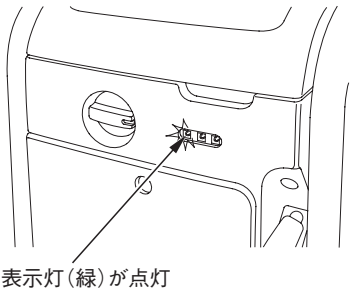
⚠注意

接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認してください。電気機器のスイッチが入っていると、電気機器が急に作動し、思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

5. 電気機器のスイッチを入れます。

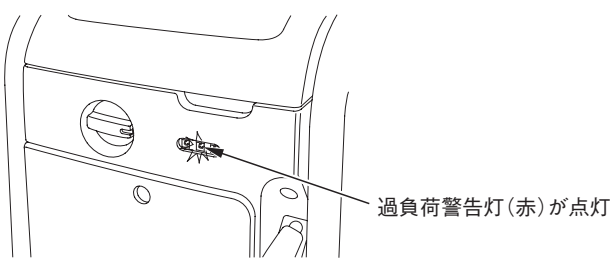
●正常運転(定格負荷)でご使用の場合は、出力表示灯(緑のランプ)が点灯し続けます。

正常運転の場合



●過負荷運転(63 頁参照)や使用電気機器が異常を起こした場合は、出力表示灯(緑のランプ)が消え、過負荷警告灯(赤のランプ)が点灯し続け、電気が取出せなくなります。
このときエンジンは停止しませんのでエンジンスイッチを**“停止”**の位置にし、エンジンを停止してください。

過負荷運転や短絡の場合



取扱いのポイント

モータなどの大きな起動電力を必要とする器具を使用すると、一時的(約 4 秒間)に過負荷警告灯(赤のランプ)と出力表示灯(緑のランプ)が同時に点灯しますが異常ではありません。器具が起動した後は、過負荷警告灯(赤のランプ)が消え出力表示灯(緑のランプ)が点灯し続けます。

並列運転

電気機器を接続する前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みください。

⚠警告

- 電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。
- 並列運転専用コード以外は絶対に接続しないでください。
- EU9iGBおよびEU9i以外の発電機には絶対に接続しないでください。
- EU9iと接続する場合は、EU9iの取扱説明書を必ずお読みください。
- 並列運転を行っているとき、並列運転専用コードを外さないでください。並列運転専用コードは、エンジン始動前に接続し、エンジン停止後に外してください。
- 単独運転をするときは並列運転専用コードを必ず外してください。
- 並列運転専用コードを接続したまま、一方の発電機のエンジンを止めて、電気を取出さないでください。

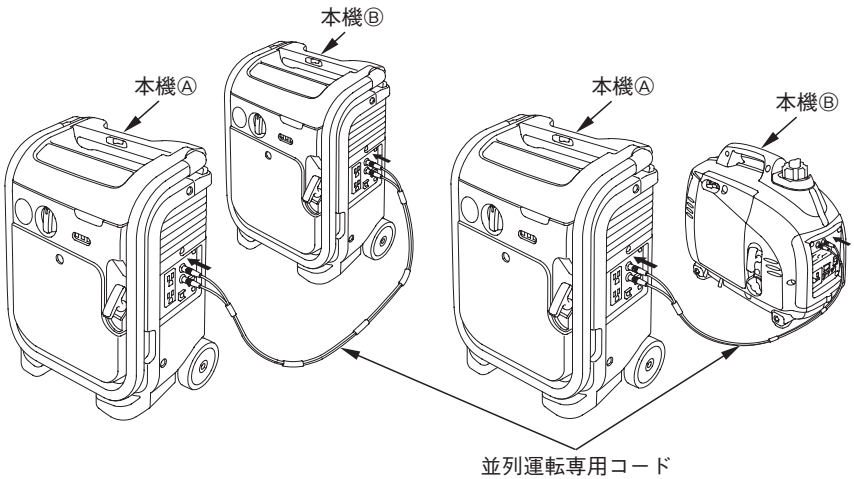
火災あるいは人身事故または本機や他の発電機、使用器具が故障する原因となります。

- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

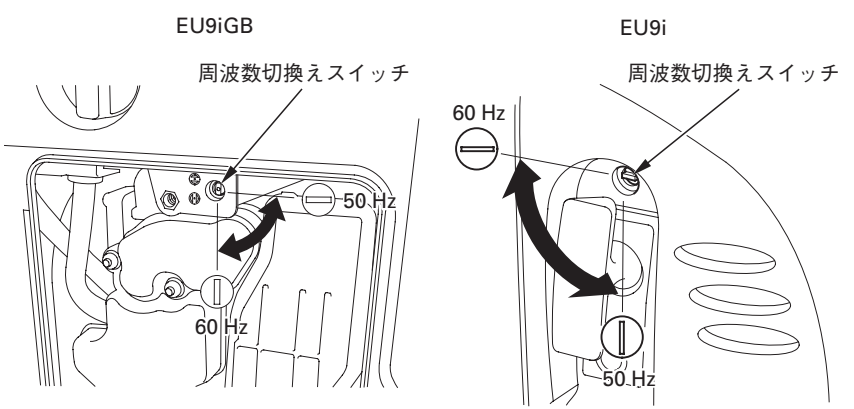
取扱いのポイント

- 並列運転をしたときに取出せる電気は以下のとおりです。
  1台のコンセントからは1500 W (VA)
  2台のコンセント併用で1800 W (VA)
  コンセント容量をこえて使用しないでください。
- 使用器具によっては過負荷となり過負荷警告灯(赤のランプ)が点灯し電気が取出せなくなります。使用できる範囲は 63 頁を参照してください。
- モータ類は一般的に消費電力の 2 ～ 3 倍の電力を起動のために必要とします。

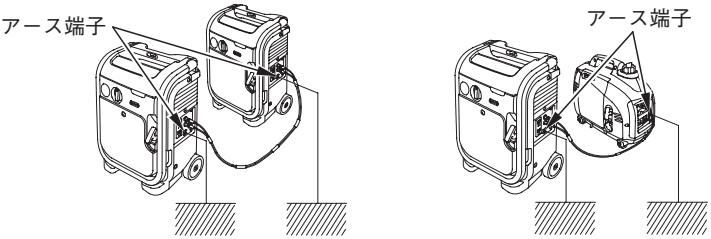
1. 並列運転専用コード(別売部品)をそれぞれの発電機の並列運転端子に接続します。本機はEU9iGBおよびEU9iと並列運転を行えます。



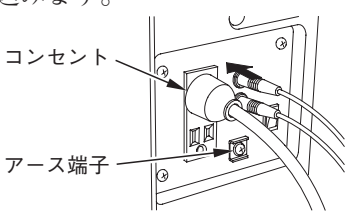
2. 本機Ⓐと本機Ⓑの周波数切換スイッチを使用器具の周波数にあわせます。



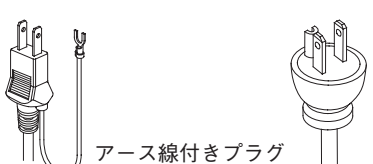
3. アース端子を接続します。
使用器具を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。



4.「発電機のかけかた」に従ってそれぞれのエンジンを始動します。
●出力表示灯(緑のランプ)が点灯せず、過負荷警告灯(赤のランプ)が点灯した場合はエンジンスイッチを"停止"の位置にし、エンジンを一旦停止させてから、エンジンを再始動してください。
5. 使用器具のスイッチが切れていることを確認し、コンセントに使用器具のプラグを差込みます。



●差込みプラグは図のような市販のアース線付きプラグまたは、アース付き3本足差込みプラグを使用してください。
アース線付きプラグは必ずアース線をアース端子に接続して使用してください。

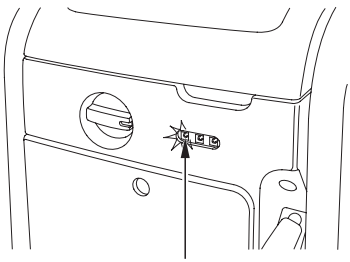


⚠注意
接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認してください。電気機器のスイッチが入っていると、電気機器が急に作動し、思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

6. 電気機器のスイッチを入れます。

●正常運転(定格負荷)でご使用の場合は、出力表示灯(緑のランプ)が点灯し続けます。

正常運転の場合



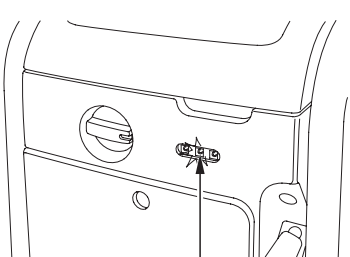
出力表示灯(緑)が点灯

●過負荷運転(63 頁参照)や使用電気機器が異常を起こした場合は、出力表示灯(緑のランプ)が消え、過負荷警告灯(赤のランプ)が点灯し続け、電気が取出せなくなります。
このときエンジンは停止しませんのでエンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンを停止してください。

取扱いのポイント

モータなどの大きな起動電力を必要とする器具を使用すると、一時的(約4秒間)に赤いランプと緑のランプが同時に点灯しますが異常ではありません。器具が起動した後は、赤いランプが消え緑のランプが点灯し続けます。

過負荷運転や短絡の場合



過負荷警告灯(赤)が点灯

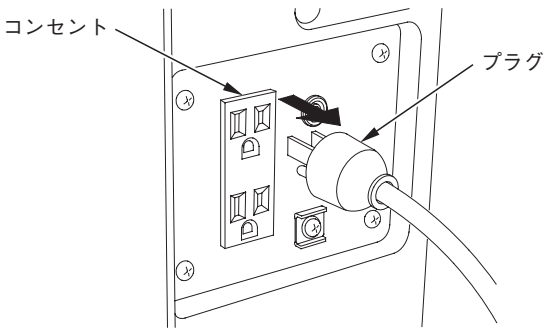
発電機のとめかた

緊急停止の場合

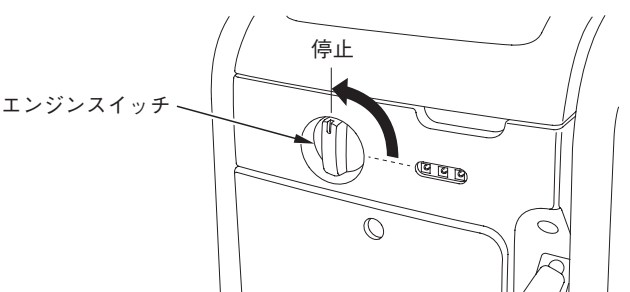
エンジンスイッチを**“停止”**の位置にします。

通常の停止

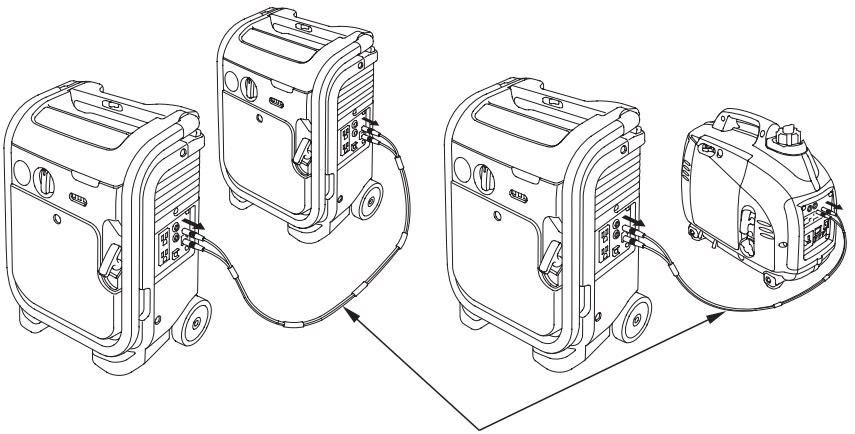
1. 電気機器のスイッチを切ります。
2. プラグをコンセントから抜きます。



3. エンジンスイッチを**“停止”**の位置にします。



4. 並列運転を使用した場合は並列運転専用コードを取外します。

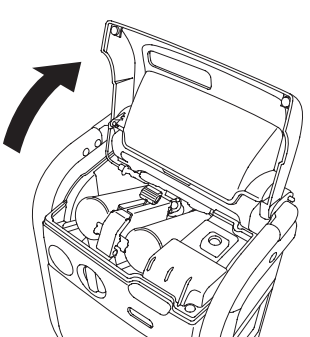


引き続き本機を使用しない場合は、「カセットボンベの取外し」、「配管内の残留ガス使いきり」を行います。

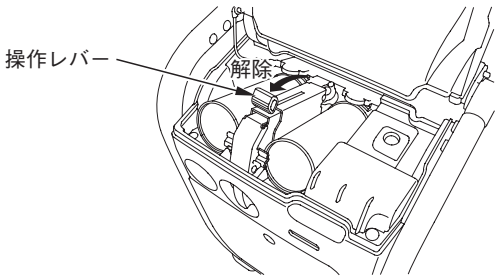
5.「カセットボンベの取外し」を行います。

①ボンベカバーを開けます。

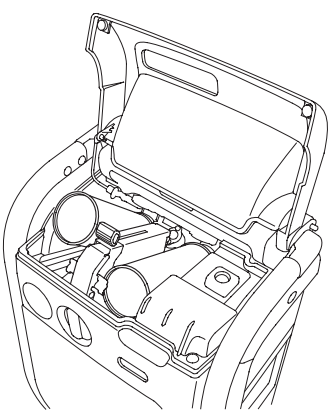
ボンベカバーはスプリングで自動的に閉まるので片手で押さえながら作業を行ってください。



②操作レバーを“固定”から“解除”へ、指をはさまないようにゆっくりスライドさせます。



③カセットボンベを手前側から浮かせて取外します。同様に2本目も取外します。



④ボンベカバーを閉じます。
ボンベカバーを閉じるときは手をそえてゆっくりと閉じてください。

6.「配管内の残留ガス使いきり」を行います。

①カセットボンベが取外された状態でエンジンスイッチを**“運転”**の位置にします。

②始動グリップを引いてエンジンを始動します。(33頁参照)

③エンジンが停止するまで運転します。エンジンが停止したら、エンジンスイッチを**“停止”**の位置に合わせます。

⚠警告

配管内の残留ガスを使いきらずに、運搬や保管、点検・整備を行うと思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHonda発電機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検時期(1) / 点検項目		作業前点検	1か月目または初回10時間運転目	3か月毎または50時間運転毎	6か月毎または100時間運転毎	2年毎または300時間運転毎	4年毎
エンジンオイル	点検	○					
	交換		○		○		
エアクリーナ	点検	○					
	清掃			○(3)			
スパークプラグ	交換					○(4)	
吸入、排気弁のすき間	点検					○(4)	
	調整					○(4)	
燃焼室	清掃			300時間運転毎(2)(4)			
口金Oリング	点検	○					○(4)(5)
燃料チューブ(低圧／高圧／ペーパライザ)	点検			2年毎(必要なら交換)(4)(5)			
レギュレータチューブ(負圧チューブ)	点検			2年毎(必要なら交換)(4)(5)			
レギュレータ	清掃					○(4)(5)	
ミキサー	清掃					○(4)(5)	

(1)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(2)表示時間を経過後すみやかに実施してください。
(3)ホコリの多いところで使用した場合、エアクリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(4)これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。
(5)傷、亀裂があれば交換してください。

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を縦置きにして、下記の状態であることを確認のうえ行ってください。守らないと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

・エンジンが停止している
・カセットボンベが取付けられていない
・配管内にガスが残留していない(45頁参照)
・エンジンスイッチが“停止”の位置にある

⚠注意

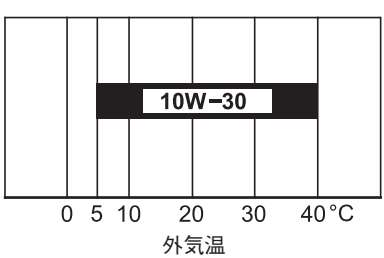
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度や、油温が高くなっています。点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》（4ストロークガソリンエンジンオイル）
Honda純正ウルトラG1または、ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

《規定量》 0.25 L

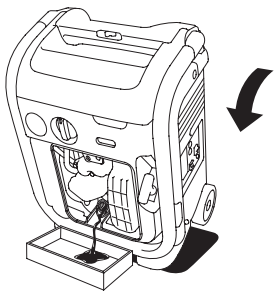


取扱いのポイント

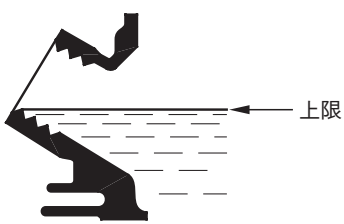
給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

交換のしかた

1. メンテナンスカバーの取付けネジをゆるめて、カバーを取外します。（21頁参照）
2. オイル給油キャップを外し、本機を傾けてオイルを抜きます。



3. 本機を縦置きの状態にし、新しいエンジンオイルを注入口の口元まで注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



5. メンテナンスカバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

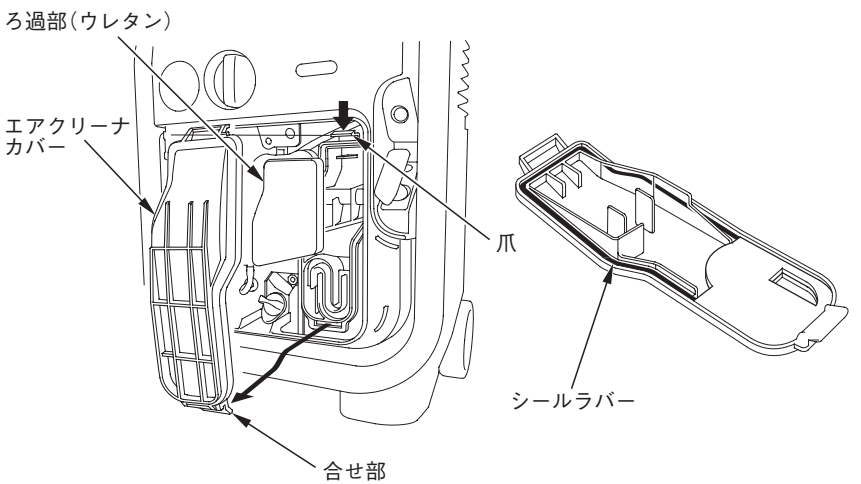
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

エアクリーナの清掃

エアクリーナが目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

清掃のしかた

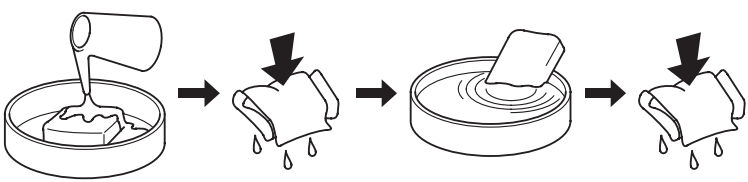
1. メンテナンスカバーの取付けネジをゆるめて、カバーを取外します。(21頁参照)
2. エアクリーナ上部の爪を押し下げ、カバーの上部を外し、下部の合せ部を外してエアクリーナカバーを取外します。
3. ろ過部(ウレタン)を取外します。



4. ろ過部(ウレタン)を洗い油で洗浄し、固くしぼってからエンジンオイル(ウルトラG１または、ウルトラU汎用－SAE 10W-30等)に浸し、固くしぼります。
ろ過部(ウレタン)はねじらずに、布で包み押しつぶすようにしぼってください。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。



洗い油で洗浄　布で包み押しつぶすようにしぼる　エンジンオイルに浸す　布で包み押しつぶすようにしぼる

5. エアクリーナカバーに取付けられたシールラバーに損傷がないこと、また確実に取付けられていることを確認します。
ろ過部(ウレタン)、エアクリーナカバーを取付けます。エアクリーナカバーの取付けは、下部の合せ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン)が変形して取付けられた場合、またはカバーやろ過部が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。
ろ過部(ウレタン)はめくれや、ずれの無いように、確実に取付けてください。

6. メンテナンスカバーを確実に取付けます。

非常用電源などの用途にご使用の場合には

非常用電源などの用途で常時使用しない場合は、いつでも使えるように毎月１回試運転を行ってください。オイルは長時間放置すると自然劣化してエンジンがかかりにくくなり、また故障の原因にもなります。

取扱いのポイント

オイルは自然劣化しますので定期点検表（46頁参照）に従い交換してください。

試運転のしかた

1.「運転をする前に点検しましょう」を行います。（23～28頁参照）
2. エンジンを始動し、暖機運転を行います。（29～34頁参照）
3. 照明器具などで500～900Wの負荷をかけて10分間以上運転します。（35～37頁参照）
4. 本機の状態を確認します。
   - エンジンの調子
   - 出力表示灯（緑）の点灯
   - エコスロットルスイッチの作動
5. 照明器具など、使用した機器のスイッチを切り、プラグを外します。（42頁参照）
6. エンジンを停止します。（42頁参照）
7. 本機の状態を確認します。
   - エンジンオイルの漏れ
   - 燃料の漏れ
8.「カセットボンベの取外し」を行います。（43～44頁参照）
9.「配管内の残留ガス使いきり」を行います。（45頁参照）
10.「長期間使用しないときの手入れ」に従って保管します。（55～56頁参照）

運搬する場合には

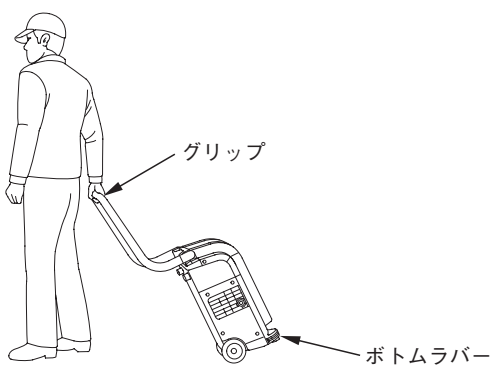
⚠警告

本機を運搬するときは下記の状態であることを確認のうえ行ってください。守らないと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

・エンジンが停止している
・カセットボンベが取付けられていない
・配管内にガスが残留していない(45頁参照)
・エンジンスイッチが“停止”の位置にある

キャリーハンドルの使いかた

本機を移動するときは、キャリーハンドルを引き上げ(22頁参照)、ハンドルのグリップをしっかりと持ち、ボトムラバーを浮かせて移動します。



取扱いのポイント

運搬するときは下記の取扱いをしないでください。本機が破損、または故障する原因となります。

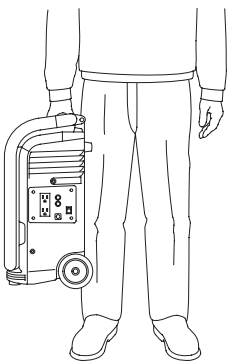
・凸凹の激しい道、石がある道では、キャリーハンドルで運搬しないでください。
・発電機の上に荷物等を載せて運搬しないでください。
・本機を持ち上げるときにキャリーハンドルを使用しないでください。

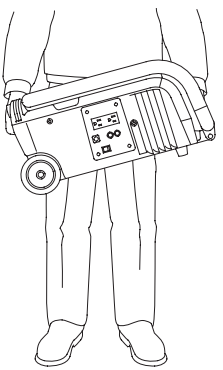
持ち上げるときは

本機を持ち上げるときは以下のとおりに行ってください。

- 片手で持ち上げるとき:リアハンドルをつかんで持ってください。

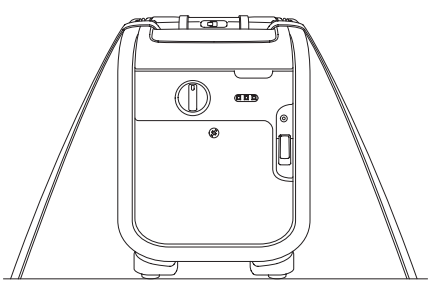
- 両手で持ち上げるとき:リアハンドルと本機の底部を持ってください。

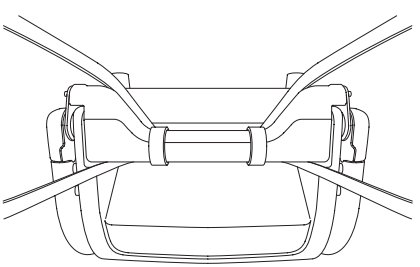




トラックの荷台などへの積載

キャリーハンドルを閉じ縦置きにして、下図のようにリアハンドルにロープなどを掛け、適度な力で締めてください。過大な力で締めたり、他箇所にロープを掛けると本機を破損させるおそれがあります。





(上から見た図)

乗用車への積載

乗用車の車内に積載するときは、本機が動かないように固定してください。また、横置きするときは本機を平坦な場所で水平にして積載してください。

取扱いのポイント

- 長時間運搬のときや悪路を走行するときは本機を横置きにしないでください。エンジンオイルがエアクリーナへ流入し、運転時に白煙が発生するおそれや、オイルが減少し破損につながるおそれがあります。
- 本機の上に荷物などを置かないでください。本機が破損するおそれがあります。

長期間使用しないときの手入れ

長期間(30日以上)運転しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠警告

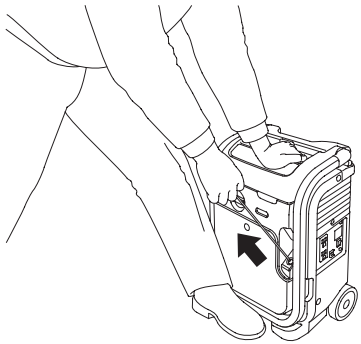
液化ブタンは瞬時に気化し、非常に引火しやすく爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
カセットボンベを取外しするときは
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。

⚠注意

- 手入れを行う場合は、平坦な場所に本機を縦置きにして行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度や、油温が高くなっています。点検･整備はエンジンが冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

1. 本機からカセットボンベを取外し、配管内に残っているガスを使いきります。(43～45頁参照)
   取外したカセットボンベは、ボンベ付属のキャップを装着して40°C以下の日陰で、湿気の少ない場所に保管してください。

2. エアクリーナを清掃します。(清掃方法は49～50頁参照)
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジンバルブが閉じ、燃焼室内にほこり等が入らない状態にします。)



4. 本機各部の清掃を行います。

⚠警告

発電機を水洗いしないでください。
電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。

5. 本機が冷えている状態で、縦置きにしてシートなどをかけて、下記の条件に合った場所で保管します。
   - 風通しのよい場所
   - 湿気の少ない場所
   - 室温が－15°Cを下回らない場所

取扱いのポイント

- **本機を長期間格納するときは、横置きにしないでください。エンジンオイルがエアクリーナーへ流入し、運転時に白煙が発生するおそれや、オイルが減少し破損につながるおそれがあります。**
- **本機の上に荷物などを置かないでください。本機が破損するおそれがあります。**

修理を依頼される前の簡単な点検

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。

エンジンが始動しないとき

1. ガス漏れ(臭気)はありませんか?
   本機周辺からガス漏れ(臭気)がある場合は、カセットボンベを取外しお買いあげ販売店またはサービス店にお問い合わせください。
2. 始動方法は取扱説明書通りですか?(29～34頁参照)
3. 外気温は、本機の使用温度範囲内ですか?
   使用温度範囲:外気温5～40°C
   外気温が使用温度範囲外では、本機は使用できません。
4. 圧力検知弁が作動していませんか?
   カセットボンベを本機に取付けたまま保管すると、圧力検知弁が作動する場合があります。圧力検知弁が作動中はエンジンが始動できません。リセットボタンを押して圧力検知弁の作動を解除してください。(58頁参照)
5. カセットボンベにガスはありますか?(24頁参照)
6. エアクリーナは正しく取付けてありますか?また、ろ過部は目詰まりしていませんか?(27頁参照)
7. 長期保管後ではありませんか?
   長期保管後でエンジンが始動しない場合は、以下の手順でエンジンを再始動してみてください。
   ①カセットボンベを居住室内の温度になじませてください。
   ②カセットボンベを外した状態で、始動グリップを4～5回勢いよく引きます。
   ③居住室内の温度になじませたカセットボンベを取付けて、エンジンを始動してください。

   - 15回以上始動グリップを引いても始動しない場合はお買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

エンジンが突然停止してしまったときは次の点を確かめましょう

1. カセットボンベにガスはありますか?(24頁参照)
   - エンジンが止まるまでカセットボンベ内のガスを使っても、カセットボンベ内に少量のガスが残る可能性があります。なお、冬季は夏季に比べボンベ内に残留するガスが多くなる場合があります。
2. 圧力検知弁が作動していませんか?

   カセットボンベ(配管)の圧力が設定圧を超えると、圧力検知弁が作動してエンジンが停止します。圧力検知弁の作動はリセットボタンを押すことで解除できます。リセットボタンを押してもすぐにエンジンが停止する場合は、以下の手順で圧力を取り除いてください。

   圧力検知弁の解除方法

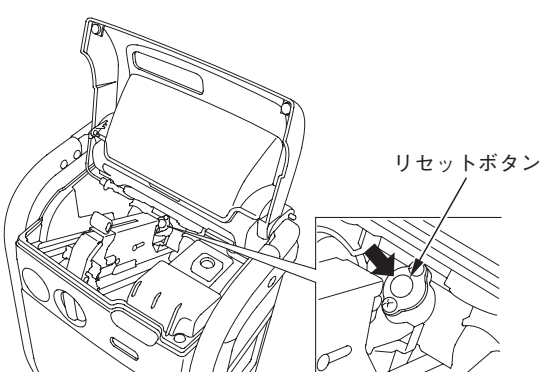
   −1 カセットボンベを取外します。(43〜44頁参照)

   −2 エンジンスイッチを**"運転"**の位置にします。

   −3 始動グリップを数回引きます。もし、エンジンが始動した場合は、停止するまでエンジンを運転します。

   −4 リセットボタンを押します。

   - 外気温が40°Cを超えている場合、カセットボンベ(配管)のガス圧力が高まり、圧力検知弁が作動しやすくなります。
   - 外気温が40°C以下でも、圧力検知弁が頻繁に作動する場合は、お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。



電気が取出せないとき

1. 過負荷警告灯が点灯している場合、使用器具に異常が無いか、電気の取出し過ぎでないか、また冷却風取入れ口がふさがれていないか確認してください。
2. エンジンスイッチを**“停止”**の位置にし、エンジンを一旦停止させます。少し時間をおいてからエンジンを再始動して、もう一度確認してください。

はじめてお使いいただく前に

工場出荷状態の本機にはエンジンオイルが入っておりません。ご使用いただく前に必ずエンジンオイルを注入してください。

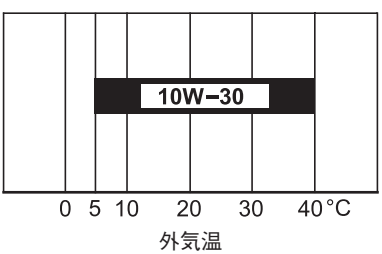
⚠警告

エンジンオイルの注入は平坦な場所で、誤ってエンジンが始動しないようにカセットボンベを取付けないで、エンジンスイッチを“停止”の位置にして行ってください。

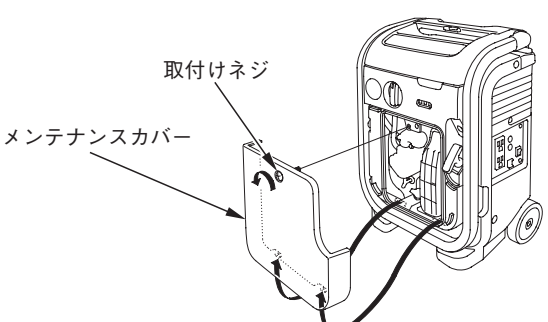
エンジンオイルの注入

《推奨オイル》（4ストロークガソリンエンジンオイル）
Honda純正ウルトラG1または、ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

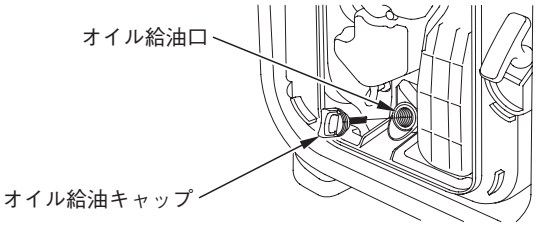
《規定量》 0.25 L



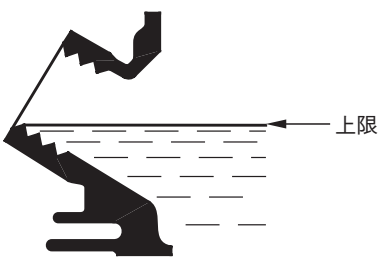
1. メンテナンスカバーの取付けネジをゆるめて、カバーを取外します。



2. オイル給油キャップを外します。



3. 本機を縦置き(12頁参照)にし、エンジンオイルを注入口の口元まで注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けてください。



取扱いのポイント

給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

5. メンテナンスカバーを確実に取付けます。

主要諸元

名称	EU9iGB
タイプ	JN
型式	EAWJ
原動機の形式	空冷 4 ストローク立型(OHV)
総排気量	57.3 cm^3
使用燃料	LPG(液化ブタン)
潤滑油容量	0.25 L
点火プラグ	LR4C－E
始動方式	リコイルスタータ
発電機形式	多極界磁回転型
機体形式	フルカバードタイプ
寸法	
全長	365 mm〈365 mm〉
全幅	442 mm〈262 mm〉
全高	944 mm〈524 mm〉
乾燥質量(重量)	19.5 kg
出力	
定格出力	900 W (VA)
定格周波数	50 Hz/60 Hz
定格電圧	100 V
定格電流	9.0 A
電圧調整方式	PWM方式
出力端子	アース式コンセント

この諸元は予告なく変更することがあります。
〈〉内の数値は、キャリーハンドル折りたたみ時の数値です。

交流電源の使用できる範囲

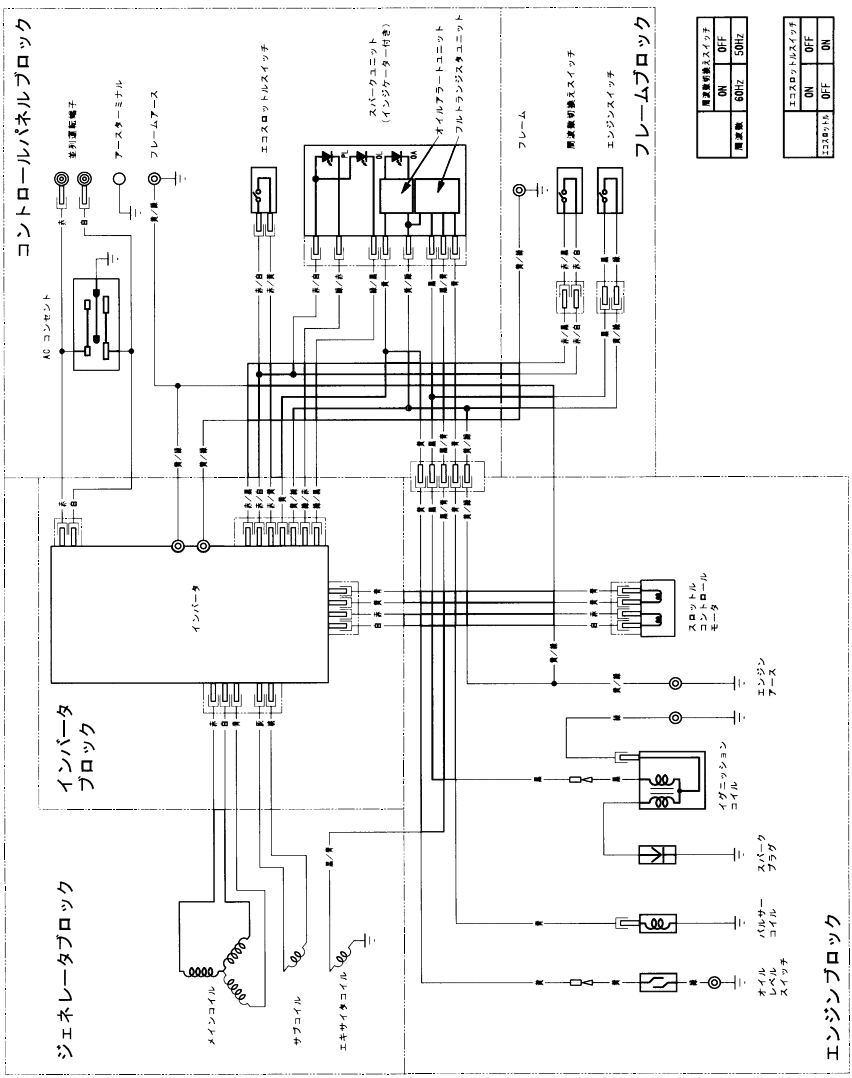
交流電源の使用できる範囲

下記の範囲でご使用ください。

<table>
<tr><th></th><th>単体運転</th><th>並列運転</th></tr>
<tr><td>オーブントースター
電気ポット
炊飯器
テレビ
照明(白熱灯、
ハロゲン灯など)</td><td>900 W (VA)まで</td><td>1500 W (VA)まで</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ドリル
ジグソー
掃除機
コンプレッサー
照明(水銀灯、
メタルハライド
ランプなど)</td><td>400 W (VA)まで</td><td>800 W (VA)まで</td></tr>
<tr><td colspan="2">モーターなど、起動電流の多い製品、または種類によって使用できない場合があります。詳しくは、お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。</td></tr>
</table>

安定器の付いた放電タイプのランプ(水銀灯、メタルハライドランプなど)を消灯した場合は、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。発電機や使用電気機器に不具合が発生するおそれがあります。
使用する負荷によっては発電機とのマッチング上、不具合が発生することがあります。お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。
ご使用いただく前に使用機器の消費電力を確認してください。

配線図


コントロールパネルブロック
AC コンセント
充利運転電子
アースターミナル
フレームアース
エコスロットルスイッチ
スパークユニット
（インジケーター付き）
オイルアラートユニット
フルトランジスタユニット
フレーム
周波数切換スイッチ
エンジンスイッチ
フレームブロック
インバータ
インバータ
ブロック
スロットル
コントロール
モータ
エンジン
アース
イグニッション
コイル
スパーク
プラグ
バルサー
コイル
オイル
レベル
スイッチ
エンジンブロック
ジェネレータブロック
メインコイル
サブコイル
エキサイタコイル
周波数切換スイッチ
ON
OFF
60Hz
50Hz
エコスロットルスイッチ
ON
OFF
エコスロットル
OFF
ON

Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

HONDA

The Power of Dreams

30Z32600
00X30-Z32-6001

Ⓢ Ⓝ (HC) 2000.2010.06
© 2010 本田技研工業株式会社